

第1回

我孫子市まち・ひと・しごと創生

有識者会議

B班

令和2年9月24日（木）

我孫子市企画課

(B班)

○林委員長 始めさせていただいてよろしいですか。

本日の我々のまず1つ目の課題になっているのが、先ほど事務局のほうから説明のありました資料1についての評価、あるいはそれぞれの評価に対するコメント、有識者の意見というところがございます。

例えば、2ページになりますと、事業の評価欄のところに、K P I 達成に向けた取組として、①から⑤のいずれの区分で、この対象事業についての評価の結果とするかというのがまず1点、検討する事項になります。

もう1点、①から⑤だけですと、必ずしも従前に評価の結果が見えてこないという部分もありますので、我々、有識者として、例えば、それぞれの事業について、何らかのコメントをしていくかどうかということも検討事項ということになります。

また、去年と少し変わっているところが1点ございまして、達成に向けた取組としてというところなんです、今回から評価が5段階区分になってございまして、特に④と⑤というところが、新しいところになっております。全く効果がなかったという区分と、あるいは、⑤のところになります、当該年度での効果は見えないが、今後に期待できると、これが新しく加わった選択肢という形になってございます。

去年までの評価方法ですと、効果は見えないけれども、今後に期待できるというようなところの区分がなかったということで、こういうの評価項目をつくったというお話がございました。

それぞれ、限られた時間になるわけですけれども、今日の宿題、実はこの資料1だけではなくて、まだ皆さんにご覧になっていただいていない分科会別のテーマの中の資料2についても、今日の11時半という定刻の中で、検討を進めていかなければいけないということがございますので、早速ですけれども、交付金対象事業について、特に今回が最終年度の評価ということになりますので、皆さんと意見交換のほうを進めさせていただければと思います。

まず1番、2ページの1というところになります、地域資源を活用したスポーツ推進事業ということで、ここには1本の事業がぶら下がる形になってございます。こちらについて、どう評価していくのかということですので、まず、先ほど事務局から説明がありましたけれども、何か皆さんのほうで、ちょっと評価をする前に、もう一度確認しておきたいという辺りはございますか。

どうでしょうか、何かありますか。ちょっとここが分かりにくいとか、補足がほしいということから、まず話を進めていければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

この事業については、先ほどの頭のところにあるK P Iのところとの関連が見られる事業ではあるわけですね。K P Iの③というところと関連する事業になっていまして、そのほかの事業のところ少しK P Iとの関連性が見えにくいところがあるんですが、こちらのほうのK P I ③との関係も見ていただきながら、評価の案を考えていければと思うんですけども。

何か意見とかありますか。

では、山下さんからお願いします。

○山下委員 オリンピックが延期になってしまったということで、外部の要因が、結構大きいのかなと。実際に開催されていたとすれば、結果は違っていたはずだと思います。来年度、オリンピックをやるかどうか、ただ、コロナの関係もあって非常に読みにくい部分はあるんですけども、今年度はコロナの関係で延期になってしまったということが大きいような気がしますので、⑤かな、私としては。

○事務局A 今回これは昨年度の実績となりますので。

○山下委員 昨年度ですか。

○事務局A そうなんです。だから、一番盛り上がって、これからオリンピックやっていくという時期です。

○林委員長 1個前ということですね。令和2年度じゃなくて令和元年度ということですよ。

○坂巻委員 すみません、障害者スポーツのボランティア活動に参加されている方の体験談を公表したと書いてあるんですけども、我孫子市内で活動の経験の体験談なんですか。

○事務局A いえ、我孫子市内に限らずです。

○坂巻委員 我孫子市内でもあったと。

○事務局A 今やっている方は、印西で障害者の方に水泳を教えていたとのこと。

○坂巻委員 そういう施設であるということですね。

○事務局A そうですね。普通の民間のプールを借りて、教室みたいな形で。

○坂巻委員 我孫子の中だと余り障害者スポーツの施設がないかなと思って、僕は大学は福岡だったんですけども、そこは水泳とか、バスケットとか、障害者用のスポーツセンターというのがあるんです。ですから、駐車場から体育館入るまで、我孫子の体育館は1つしかないんですけども、見ていると、余り障害者の方が本当に利用できるような環境ではないんじゃないかと思っているので、どこで活動されているのかなとちょっと気になったんですけども。

○事務局B 市内だと、ユアーで障害をお持ちの十七、八くらいのお子さんを対象に水泳教室

はやってはいますね。以前は、多分ボランティアの方も一緒にやっていたと思うんですが、今は、やっていないかなというところですよ。

○坂巻委員 なかなか推進の事業が進まないところは、やる場所がないというのが多分、理由だと思うのです。あれば、きっかけがつかれるので、いいかなと思ったんですけども、それが企業とか、どこでもいいんですけども、場所は。そういうきっかけがつかれる場所があれば、一番いいかなと思ったんですけども。

○事務局B 以前は、障害者の乗馬体験を市でタイアップしてやっていたんですが、最近はそのような話も聞かないのですよね。

活動の場が少ないというところも、なかなかボランティアの数につながっていかないというところなんですかね。

○坂巻委員 我孫子市でこの活動をしなくても、ほかのところで募集があれば、そちらのほうに行ってしまうと、結局、我孫子に戻ってきて、その方が活躍する場がないじゃないですか。だから、総合的にいつもそうですよね、我孫子は外へ出て、戻ってきて何かするという場所がいろいろなところでないというか。

○林委員長 ほかの県だと、障害者スポーツ施設みたいなものがあったりして、そういうところを中心にやって、そこで養成して、地域でも活動の場というのがあったり結構しますね。

意見をもし出していくとするならば、効果のところはともかくとしても、まだまだ知らせるとか、障害者スポーツを協力していこうよというところにまだあって、その先の展開というのが見えないというところに課題があるということなんじゃないかな。

ただ、事業自体、オリンピック・パラリンピックの推進事業の中でやっているということですか。いずれにしても、障害者のスポーツというものの一帯が啓蒙期という言い方はおかしいですけども、まだ、活動していきましょうよという段階で、活動の場を更に展開していくという施策展開は期待されているということでしょうし、スポーツボランティア全体もどうなんですか、そういう状況なんですか。

障害者の話のほかに、この事業自体スポーツのボランティア養成ですから、パラリンピック的なところもあるでしょうし、通常のスポーツのところというのものもあるんじゃないかな、そういうスポーツ施策との展開の関係ということも、やや弱いということなんですかね。

○事務局B 多分そういうことだと思います。

○林委員長 オリンピックがあるから、とりあえずボランティアを募集しようみたいな話で始まって、何とかワアッとオリンピックは盛り上がったけれども、そのままいけなくて、オリ

ピックがなくなっちゃったけれども、どうしようみたいなところということなんですかね。

○事務局B 多分、坂巻委員がおっしゃるように、普段から活動できる場がもう少しあると、皆さんもうちょっと勉強してみようかなとか、多分そういうこともできるんだと思うのですが、そういう機会がないのかなというところだと思います。

○坂巻委員 こども発達センターとか、障害施設の中でのスポーツの取組とか、活動しているんだと思うんです。

○事務局A 県の特別支援学校ではやっていますので。

○坂巻委員 そういうところにうまく参加して。まず最初、多分障害者との関わり方がなかなか、どうしたらいいのかと、みんな難しいところだと思うんですけれども。

○事務局A 今回、オリンピック・パラリンピックを契機に、林先生おっしゃったように、ボランティアに興味を持っていただいて、ゆくゆくは地域の中でというところだと思います。なかなかそれを目指しつつ、地域の中でその機会がないという状況なのかなと。しっかり受け皿もつくっていきながらやる必要があるのかなと感じました。

○林委員長 機運の醸成をしつつ、更に醸成するだけじゃなくて、何か転換していく、活動していくというあたりが必要なんじゃないかということですかね。

一つの課題ということになりますか。せっかく交付金を使って、こういう形でボランティア、確かに増加分ということだと、未達成ですけれども、少なくとも3年間で33と6と19という形で、このお金を使って、6万円と少額ではありますけれども、これだけのボランティアの養成ができたということが確かに一つの数としてはあるわけですが、更に将来的なところというのは、コメントになっていくのかなという形だと思います。

そうしますと、意見というのは、恐らくそういう構成ということになると思うんですけれども、評価についてはいかがでしょうか、

先ほど山下委員さんから、ちょっと見えないけれども、恐らく⑤かなというところがありましたけれども、お二方どうでしょうかね。

全く効果がなかったというところも、恐らく⑤ですか、大いにというのと、②というのもまだ見えないところがあって、しかし④もというところになりますからね。

一旦、ここでは、ほかの事業もありますので、全体的にざっとまず見てしまおうということで、ここでは仮に⑤として、意見については今言ったような方向でということ考えていければと思います。

次に、3ページに移っていただければと思います。

3 ページは少し広範囲の事業が含まれておりまして、手賀沼沿いのウェーターサイドの整備事業ということで、施策というか、くくりがつけられているんですけども、この中に2つ事業がありまして、手賀沼沿いエリアの活用整備とともに、またちょっと観光とは別の切り口で、農産物の品質向上という2つの切り口の事業が入っております。

事業の中身的にいろいろ入っているところがありますので、まずは意見交換の前に、何かこの事業に書かれている点で、評価、あるいは意見交換するのに確認したい点から、質問があれば出していただければと思います。

①の事業のほうについては、主にじゃぶじゃぶ池の関係で、業務委託、改修に関する関連、どっちかというと附帯事業なんですか、こちらで見ると、消耗品ですとか、燃料費とか、光熱水費、備品購入というあたりが中心になっていまして、そのほかドッグポールをつくったり、あるいはプラネタリウム運営というところで事業が組まれてございます。

こちらのほう、特に何か分からない点とかありますか。

山下さん、お願いします。

○山下委員 これの評価というわけじゃないんですけども、2 ページのところの事業の見直し内容について、手賀沼課さんでは、コロナウイルスの感染症により利用中止、各種イベント等の中止のため、入場者は更に減少すると見込まれる。コロナウイルス感染症が収束して、じゃぶじゃぶ池の水遊び、イベントなどが可能になることによって、交流人口の拡大を図ると書いてありますけれども、コロナウイルスの感染がおさまったら伸びていくという形で増やしていくのが事業の見直しなのかなという感想をちょっと持っています。どうなるか分からないじゃないですか、コロナ感染、人々の気持ちの問題もあるし。だから、事業の見直しの方向性としては、感染症対策を徹底して、もう安心して利用いただけるというようなことをPRしていくとか、何かそういうことなのかなと思います。観光なんかでもそうだけれども、感染がおさまらないまでも、安心して来てもらえるような取組の内容がなかったのが、ちょっと気になりました。

○林委員長 確かに今後はということで、それに近いあたりの話もやや書かれていますけれども、もう少し何か、見直し内容として、予防対策を徹底したイベントとか、学習利用促進というのはありますけれども、何かコロナの関係でどうしようもないという部分の印象が強く見えてしまいましたね。

影響は見えないですけども、もう少し何か見直し内容としては、予防対策を徹底した単なるイベントということでなくて、もう少し具体的な書き込みとかをしていただくということで

しょうか。

利用促進のためのイベントとか、この会議の中でも、もうすぐできるというお話が去年あったりして、利用促進をどんどんやっっていこうという中で、コロナでできなくなったというところがあって、もう少し事業内容の見直しをより具体的にかつ安全面に配慮した形で有効活用していくための方策を検討するとか、そういう形のことというのを書いたほうがいいということですかね。

○山下委員 コロナウイルス収束頼みみたいな形になっているような印象を受けたんで、事業の見直しということではないなという感じがしました。コロナの状況が続いている中でもやれることはあるのかなと。

あとは、評価の前に、レストランというのは、どれだけ人が入っているんですか。

○事務局B レストランだけの数は出ていません。数自体は、水の館で一本化で押さえてはいるんですが、時々様子を見にいくと、お昼の時間帯に満席ではない。一応テラスのほうもあるんですが、大体お部屋のほうはぼちぼち埋まっている。ただ、すごい混んでいる感はないですね。お昼の時間を過ぎると、やはり客足のほうはかなり減っているというところですよ。

○山下委員 あそこのレストランの事業というのは、公募かなにかで入ってもらっているのですか。

○事務局B 公募ではなく、もともと飲食店をやっていた方をお呼びしてつくっていただいているというところですよ。

○林委員長 私もこの委員会、11時半に終わる頃見て、終わった後そこへ行って食べるということ、去年なんか毎回終わった後、楽しみで行っていたんですけども、そういう感じですね。そんなに待たなくても大丈夫です。確かに、席は結構座っているんですけども、ちょっと待っているとすぐ空いて、座って食べられます。メニュー自体も面白いものがいっぱいあって、地元の野菜のチャーハンがあって、大盛りなんか頼むとサービスしてくれたりとか、いろいろな地元の食材があって、本当は利用するといいなと思うんです。そういう意味で魅力的な施設ではあるなというふうにいつも思っていたんです。

○事務局B 料理長が元中華屋さんをおやりになっていた方なので、林先生が言ったように、チャーハンとか、あんかけ焼きそばなど、結構ボリュームがあります。

○林委員長 割とがつつり系のメニューがあって。

○事務局B そうですね。本業だったので、そういう系は結構力が入っていますね。

○林委員長 米なんかも結構おいしいかもしれないです。地元産の米なのかどうか分からない

ですけれども。

○事務局B 一応地元産ということはこだわってはいるようなので。ただ正直、ここに来たらこれがおいしいみたいなものがまだまだ開発されていないので、そういうところでは集客力が弱いかなというところはあるかと思います。

○山下委員 私も何か正直そんな感じを持っていて、どこでも何か食べられそうなもの、地元野菜かもしれないです。1つ、2つでいいんだけど、ここに来ないと食べられない、口コミで広がるようなものが本当はあるといいのかなと。

柏側になるけれども、沼南道の駅があって、野菜レストランができたじゃないですか、あそこは、結構人が入っているんですよ、常に。

○事務局B 入っていますね。

○山下委員 入っているでしょう。あれはここだけで食べられる感みたいなのが何となくあって、あと、野菜のバイキングなんかもいいんじゃないかなと。そうやって食べることで楽しみだという人が行くじゃないですか。そうした魅力があるといいのになと。場所的にはすごくいい場所にありますよね。もったいないなと。

○事務局B おっしゃるとおりです。向こうのほうが明らかに女性客をつかんでいるというのも現状としてありますし、食べ物の魅力とともに、手賀沼の遊歩道をお散歩できる。サイクリングできるという人をターゲットに、犬と一緒に入るとか、そういう仕掛けもやっているのので、向こうのほうでそういう意味では、ここにだったら行ってみようという集客力は高いのは事実です。

うちも、デッキのところでご飯を食べながら犬をつないでおくためにドッグポールはつけたんですが、余りつながっていないかなというところなんです。

○加藤委員 レストランでの子供対応はどうなっているんですか。

○事務局B 子供メニューというのは特にはないんです。一緒には食べられますけれども、お子様ランチとか、そういうものは特にはないです。

○林委員長 行くと、子連れを必ず1組、2組、おじいさん、おばあさんが孫を見ているみたいな、私も会議のたびしか行かないのですが、行くと結構、孫とおじいさん、おばあさんという組み合わせが、なくはないみたいな感じなんですよね。多分子供の遊び場としても、水鉄砲とかも楽しそうですし、遊びに何かポテンシャルはありそうなので、起爆的に知られると、もっと楽しい場所というふうになっていくのかなというところがあるようなんですけれども。

○加藤委員 私はそこを実際に行ったことがないので分かんないんですけれども、母親として

育てていたことから考えると、お子様メニューがあるとかないとかというより、私よく柏の麗澤大学の中に入っていて、ここに食堂みたいなのがあって、別に子供メニューはないんで、うどんとか食べさせていたんですけども、さっき犬を連れて大丈夫だとか、子供を連れて便利なアメニティーといいたいでしょうか、そういうものがどうなのかと。

子供を連れて行って、お弁当を食べても何してもいいし、どうぞ自由に使ってくださいと。今はコロナだから難しいかもしれない、そういう場所で子供用の椅子があるとか、取り分ける皿があるとか、そういう利便性というか、子連れの人と一緒にご飯を食べるのに使いやすいというようなものがないと、ただお子様メニューがあるとかないとかではなくて。割とうちの子もお子様メニューは好きではなかったんで、別に大人のを取り分ければいいんですけども、うどんとか好きで。公園だからお弁当を食べてもいいし、そこで買ってきたものを外で食べてもいいしというのがあったんです、すごい好きで。その時にちっちゃい取り分けの器があるとか、そういうものも自由に使えるとか。

じゃぶじゃぶ池に親子連れを呼んでいて、私は我孫子市の母親学級をやっていて、皆さんに我孫子市で妊婦さんなんて運動してほしいから、お散歩コースとか何かいいところを、皆さんが何かあったら言ってくださいとなると、やはり、手賀沼の広場にいっぱい行ってくださって言える。そういうふうに妊婦さんが利用したところから、子連れで今度は来るようになって、子供が使いやすいというか、お外でご飯食べようねと言えるようないい場所になるといいのになと思ったので。

○事務局B 確かにそういう仕掛けはないですね。

○加藤委員 子供用の椅子があるとか、何かちょっと小さい。

○事務局A 器と何か子供用のフォークとスプーンはあります。

○加藤委員 そういうのをご自由にと声かけて。今はコロナだからご自由にというわけにはいかないんだと思うんですけども、そういうのは使いやすいとか、そういうアピールというか。

○事務局B PRはしてないですね、たしか。

○加藤委員 ああ便利と。わざわざ子供用のものを全部持っていかなくても、そこで食べられるというところがあると、親は楽というか、全部子供用のものを別に持って行って、公園でみんなでご飯を食べるのに、全部準備していかなくちゃいけない。その場に行って、何か一緒にできるというか、楽かなと。

○事務局B せっかく、じゃぶじゃぶをつくって、今おっしゃったように、お外でも食べるスペースがたくさんあるのに、そこを活用して一緒に食べたいというように思わせるような仕掛

けはまだまだ足りてないかなというところがありますね。

○加藤委員 せっかくちっちゃい子呼び込むので、そこでみんなで楽しくランチできると、母としてはうれしいというか、そういうふうなのが楽にできる場所というか、そうしたほうが集客を呼ぶと。

○事務局B 中でなく外で食べれば、コロナの対応とかも、今以上にはできてくるのかなというところもあります。

○加藤委員 こちらにもキッチンカーとか言ったけれども、どこかの駐車場にキッチンカーをいっぱい集めて何かやっている、テレビでもそういうのをやっていたし、外で食べれば少し空気、天気がいい時しかできませんけれども、今の季節しか。でも、すごい皆さん、交流の場もあって喜んでいただいとって、レストランの中だけじゃなくて、外に持ち出しオッケーで、持ち帰ってもらうとか、ちょっと対策は難しいんですけども。

だから、私たちも、その食堂で買って、持って行って食べてもよし、近くのセブンイレブンで買って来た人もいる、自分で弁当をつくってきた人もいる、みんなでいろいろなものをそろって食べられたというのが、すごい麗澤の魅力だったので。

○林委員長 どっちかという、交流人口を増やそうよみたいな施策ではありますけれども、前々から話が出ている子育て支援施策と、こういう施設をうまくミックスして、何かできないかねという話も結構出ていたりするんです。

前も市長さんが写真に写っている子育てママもお勧めじゃぶじゃぶ池みたいな広報も見かけた気がするんですけども、まだまだ多分知られていない気がするんですよ。

○事務局B ちょうど建物の真裏にあるので、外から見えないんです。遊歩道のほうからだと見えるんですけども。

○林委員長 手賀沼側だと見えるんですけども、道路側から見ると直売所の建物があって。

○加藤委員 女性のロコミは大きいと思うので、女性に気に入ってもらえれば、子育てのママたちに。

○林委員長 関係ないんですけども、最近ネットで見かけたのは、ベルサイユのばらの著者がデザインしたとかしないとかというのがネットニュースで書かれていました。

○事務局B そうです。

○林委員長 妻と見ていて、これは嘘なんじゃないのと言っていたんですけども、本当なんですか。池田理代子がデザインして、意外とそういうので最近ネットニュースで載っているんですけども。

○事務局A したんですけれども、それはいろいろデザイン的に、その当時はふさわしくないとと言われて、今の形態になっています。

○山下委員 屋根の形だけ直したんですよ。もともとはとんがった屋根だったんですけども、丸屋根にしたんです。

○林委員長 一部本当で、一部ちょっと違うということなんですね。最近ネットニュースを見ると、あそこはデザインしたんだかなんか、聖地みたいで、行ったほうがいいんじゃないかと、ああ、知らなかったなと思っていたんですけれども。

話を戻しますと、そういう形でいろいろポテンシャルはあるでしょう。今お話いただいたとおり、子育て支援とか、子供と家族連れというのを呼んでくるためにはまだまだ仕掛けが必要ですし、せっかく整備したんですから、先ほど山下さんもおっしゃられていましたけれども、コロナの中でもできることというのがあるはずですので、そういった辺りをうまくやっていただきたいというのがコメントになりますかね。まず前段の手賀沼沿いエリアの特に水の館のところ。

また、後段のところはいかがでしょうか。農産物の直売のところ、認証手続とか、肥料の適正化ということで、直接消費者の安心・安全を守るための基盤みたいな話のところはここでは書かれているんですけれども、こういった辺りはいかがでしょうか。

ちょっと一定のことを言われてもここは難しいところがありますからね。

○山下委員 これは必要な取組だと思うんですけれども、外から見えにくいですよ。

○加藤委員 分からない、ぴんとこない。

○山下委員 だから、K P I の貢献はすごい測りにくいですね。

○林委員長 K P I との兼ね合いというのは、またちょっとここがやや弱いんですよ。

先ほどのところの施設の話ですと、K P I ①のところと関連があるのはあるんですけれども。

○事務局A 状況としては、エコ農産物に指定されると、シールを貼るようになっているんです。そのシールを貼っていただける品数は、昨年からはじめているので、今年度に入って数のほうは伸びているという状況ではあります。

ただ、水の館でしか売れていないので、ここからいかに市内展開をしていくのかというところがこれからの課題です。

○林委員長 今の評価はいかがでしょうか。数値的なK P I をちょっと皆さんと確認していきますと、K P I ①がこちらに直接関連するところとなりますけれども、令和元年度増加分で評価することになるので、846の減という形が令和元年度の実績の評価という形にはなるんで

すけれども、悩ましいのが、実績値を見ていただきますと、29年度というのは確かにまだ新しい施設ができてなかった、できたのは、年度途中だったんですね。30年度、令和元年度になると46万台に、3万ほど増えて、以降、46万人台で横ばいから、やや微減の状況になっているというのがこちらの施策のK P Iになっているのかと思います。

K P I 達成に向けた取組としては、減ではありますけれども、④というのは恐らくあり得ないかなと。全く効果がなかったとはいえないというものの、①、②、③、あるいは⑤といったあたりで、どの辺りでこちらのほうの評価をとというのが適当だと皆さんお考えでしょうか。

悩ましいところですが、何か定量的な指標があるわけではないんですけれども。

どうしても選びがちなのは、ここを見ると⑤かなという感じに、②か⑤かという感じだとは思いますが、③、④というのはちょっとないかなという感じがします。しかし、単年度の目標の増加分と状況で見れば未達成なので、こちらも現段階では⑤でよろしいですか、皆さん。

ただ、今いろいろ雑談も踏まえた形になりましたけれども、まだまだこれから、先ほどコロナ禍であってもできることがあるので、そういった辺りに期待を込めてぜひ横断的な取組をしていただきたいというふうな形の意見がこちらで出ていましたので、そういった辺りを中心に整理していただけるということにしていければと思います。

では、またもう少し先に進ませていただきまして、次が、4ページになります。

我孫子の魅力発掘・発信・シティーセールス推進事業ということで、問題になっているのは、シティープロモーション、シティーセールスについての事業というのがこちらになります。

まずは情報発信の推進というところが1本ぶら下がっている形になっていまして、各種の取組をこういった形でしていただいているということになります。

こちらには、直接関連するK P I ということではないんですけれども、K P I の2のところやや関連しているという形なんで、これらの全体的な結果として、駅前にあるアビシルベのインフォメーションセンターのK P I ということの関連があるような形の事業の書き方がなされています。

こちらのほうについての意見交換をする前に、先ほどと同じですけれども、取組内容について何か確認したい点がありましたら、まずそこからスタートしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。何か確認したい点、ございますか。

何か気になる事業とかありますか。

特に質問がなければ、意見交換というふうにしたいと思うんですけれども、こちらの事業に

ついてはどうでしょうか。どういう形の評価をしていくのがよろしいか、あるいは、コメントとしてどういったところをコメントしていくかということにはなるんですけども。

いつもですと、うちのグループは高橋委員という川村女子の先生がいらっしゃって、結構PRについて意見があるのですが、今日はいらっしゃらないので、皆さんの中で何かありますか。こういった取組は、いろいろ千葉テレビに情報提供するとか、様々なYouTubeチャンネルでARガイドを出したりというのがありますが、皆さん、どうでしょうか、こういうのを見たことがあるとか、見てよかったというところは何かありますか。

○山下委員 千葉テレビはそんなに皆さん見ないのではないですか。自分も余り見ていないし、千葉テレビじゃないところに本当は出せるといいですね。ナイツはTBSでラジオを使っているのでもいいと思いますが、ただ、費用が相当かかってしまうんですね。

○加藤委員 目にする機会は大事ですよというか、何か松戸もいろいろ戦略を練っているんですが、電車に乗っていても、何していても、流山を売り出し中だから、「子育てに流山市」みたいなポスターが電車の広告に貼ってあるだけで、何か流山はいいところな気がしてしまう、素敵なイメージというか、そっち一個ですごいというか。流山はずっとサービス悪いのにねと言っているのに、何かそういう感じで。

○林委員長 まちに行った感じでそんなに我孫子と違いはない感じがするんですけども、流山のまちなか全体をうろうろしてみると。我孫子市でうろうろしてみても。

○加藤委員 そうなんですけれども、何かそのイメージ戦略というか、いつもよく目にするというのはすごいんだと思う。

○林委員長 情報は早いんですね。総合計画なんかで議論になっているところ、シティープロモーションは何でも情報を伝えればいいということじゃなくて、何のために伝えるのかというのが少し問題になってきているところなんです。我孫子という場所があるよというのを知らせるということじゃなくて、知らせるからには何か知らせるための目的というのが必要で、流山さんのように、例えば子育て世帯に厚い支援をしていますよという体で、子育て世帯を呼ぶために広報するというのがありますけれども、逆に言うと、我孫子の何を知らせていくのかとか、何を使って知らせていくのがいいんだろうというのが、総合計画審議会で結構話題として出ているんですね。

子育てにやさしいというので、いろいろ打ち出しているというのもありますし、流山流のものもあるでしょうし、我孫子琉というものがもしあるとすれば、どういったことをこれで伝えていくのか、目的が何で、例えば若者が定着するためにPRするのか、それとも外から呼んで

くるのか、中から出さないようにするのかとか、広報に目的があるようなところがあるんですけども、どうでしょうか。プロモーションしていくとすれば、効果的であり、何を目的にしていくというのが今いいんでしょうか。ちょっと話が抽象的になってしまったんですけども。

○事務局B 千葉テレビは、正直県民の中でも見ないというお話があったんですが、ラジオは皆さんお聞きになるんですか。

○山下委員 車を運転している時とかは聞きますが、普段、家にいる時はなかなか。

○事務局B 家にいる時は聞かないけれども、車だと意外と聞くということですかね。

○山下委員 あと、お店、例えば床屋さんとか、流していたりしますよね。

○事務局A ラジオのCM自体が結構運転手さん向けみたいなのところが多いですよ。ターゲットは車を持つ人なんだろうという感じがします。

ほとんど時間帯は、通勤時間帯とかなんでしょうね。

○坂巻委員 子育てのほうからいくと、待機児童ゼロというのは余りアピールにならない。子育てしやすいまちのほうがいい。お店でもすぐ座れますよというお店よりも、混んでいて並ぶというほうが、何か人気があるのかなと。余りゼロゼロと言うと、人少ないのとか、余りよくないのみたいな。だから、うちも、例えば保育士さん募集とか、広告を出しませんかという業者がたくさん来るんですけども、ここは余談なんですけれども、余り人が少ないから求人募集ばかり出していると、何かブラックみたいな。

○加藤委員 そう思います。看護師の職場も、しょっちゅう出ていると。

○坂巻委員 余りその広告は出し過ぎるというのも、例えば出しても3か月とかだけで、急募とかというので出す。待機児童ゼロとずっと言い出しているも、余り、何で少ないのと。

○加藤委員 いつも求人出ている、ここはきっとブラックな職場だなと、看護師とかも思います。

○坂巻委員 だから、市長とこの間懇談した時も、待機児童ゼロとか、高齢者にやさしいというと、みんな来ちゃうから困っちゃうので、余り宣伝しないなんて言っているんですけども、今まで30年近く待機児童ゼロ、来た時ないので。そこのアピールはちょっと違うかなと。

○事務局B 総合計画審議会においても、PRの仕方、キャッチフレーズが何をしたいのかというところがちょっと焦点がぼやけているんじゃないかという話があって、子育てしやすいまちというのをある程度PRはしてはいるものの、市のキャッチフレーズが物語の生まれるまち、ぴんとこないですよ。だから、そこがどうなのかなというご意見もいただいていたので、おっしゃったように、流山はこういうまちにしたいというのが目に飛び込んでくるから分かる、

ただ、我孫子は飛び込んできた時に、何がしたいのかがよく分からないかなというところが皆さんの印象なんですかね。そこは、ちょっと少し工夫が必要かなというところではあります。

○坂巻委員 例えば、横浜、鎌倉とか、そういうところは景観を大事にするじゃないですか。電話ボックスから、信号から、ガードレールから、全部色が決まっていたり、制限があったり、そういう京都のいろいろなところもそうですけれども、だから、先ほどの水の館レストランも、机一つにしても、例えばこういったパイプ椅子ではなくて、ちょっとおしゃれなとか、外で食べるんだったら、だから、どうしてもお金がかかるんですよ。最初は投資しなくちゃならない。

だから、例えば外で食べる時も、夏だったら、パラソルがないといけない。冬はどうするんだ。東京の都内へ行くと、ストーブが真ん中にあるって、パラソルがあるって、外でも食べられると。だから、そういう投資、市が投資しろということじゃなくて、民間もそういうのをして、お互いにウィンウィンで投資ができるようにならないと、1年中外でも食べられるようにするにはストーブやヒーターがないと。そういうのもあれば。

特に、さっきも加藤先生が言いました、女性をターゲットにしてと行った、女性と子供というか、確かにそういうのが必要かなと。

○加藤委員 旦那主導で余り動きませんから、ファミリーはね。

○坂巻委員 住む場所もね、女性が。

○加藤委員 奥さんのほうが引っ張るので、やはり女性を引っ張らないと人は動かないかなと。

○坂巻委員 だから、委員会とか、そういう会合も半分以上は女性とか。

○加藤委員 私も、私だけみたいな、こんなに男だらけという……

○坂巻委員 そういう人選からしたほうがよろしい。

○事務局B 奥さんは友達とランチしますから。

○坂巻委員 そこが狙い目なんだ。

あとは、こういう芸能人とか、スポーツ選手とか、宣伝で使うのは、お金はかかると思いますが、一番手っ取り早いかなと。

○事務局B 結構なんだかんだ言って、ふるさと大使になってもらっている方もいるので、そういう人たちをもうちょっと活用するということですかね。

○山下委員 移住・定住を考えた時に、我孫子の場合は、どの辺の人たちをターゲットにしているのですか。

○事務局B 状況を見ると、自分が今住んでいるところより便利なところを目指していくので、都内よりは、埼玉や茨城からの転入者をターゲットにとします。

○山下委員 便利だというふうになってくると、柏があつたりとか、松戸があつたりとか、結構その辺競争が厳しいじゃないですか。

○事務局B あとは住宅事情です。

○山下委員 値段もありますね。

○事務局B そうですね。

○山下委員 自然が結構我孫子の場合は売りじゃないんですかね。

○事務局B 自然も売りですが、皆さん、働くというのをキーワードにされると、働く場所に行くのが便利、さらに、お家の価格が都内より少し安い傾向になっていくというのが今の世代です。以前、調べたんですけれども、埼玉が今人口が非常に伸びていて、私たちの我孫子と同じような人口規模のところも結構伸びているんです。何でかという、都内の池袋などに近い、すぐに行ける。でも、家を買うなら安い埼玉というところが今人気があるようです。

○事務局A 山下さんおっしゃるように自然というのもあると思うんです。ずっと自然の中にいるというよりも、都内に勤めている人は週末、自然環境とか、ある程度アクセスもあつたりとか、プラス自然環境とかというところで我孫子は選んでもらうようにするのがいいのかなと。

○山下委員 移住・定住でというよりも、要するに、近隣の近場の観光という形で、車でも来れるというか、そういう部分でアドバンテージがあるんですかね。

○事務局B 土日はちょっと子供とゆっくり自然の中で過ごして、平日は働きにという感じですかね。

○山下委員 どの地域のどの世代にどういう感じで来てもらいたい、移住・定住なのか、観光なのかというふうなことで、この辺の組み合わせをしていけばいいと思うし、それは多分総合計画のほうに、いわゆる戦略的なシティープロモーションということで整理されるのかなと思うんです。

○事務局B 林先生がおっしゃったように、どこに伝えたいのか、何を伝えたいのかというところをきちんとする。明確にするということですね。

○山下委員 そうですね。せっかく行政コストをかけても、本来見てほしい人、聞いてほしい人に届かなければもったいないですよ。

○林委員長 何となくのイメージアップならいいんでしょうけれども、イメージをアップするということの広報とまた違うところで必要になるとすると、やはり山下さんおっしゃられたとおり、ターゲットになることにつけていくということが必要になりますよね。

何か学生と調べて、ちらっとしか調べてないので、余り詳しくないんですけれども、意外と

我孫子に移住してくるといっても結構近隣市町村から、取手のほうとか、栄町とか、印西のほうというのが以外と我孫子に来ているような印象があって、我孫子から都内に行くといつもいますけれども、周辺からも来るという流れも、国がつくっているリーサスとかがあるじゃないですか、あれなんかもいじってみると、割と結構来ている流れもあるんだなという感じなんです。そういうところを想像してみると、都内に出るのに、一回我孫子に出て、さあまたみたいなところがどうも寄せているというか、我孫子に住むところの人の流れがあるような感じに見えました。詳しい話は紙を持ってこなかったのですが、学生と、我孫子にどこから人が住みにくるんだろうというのを国のリーサスというシステムを使っていじってみたら、意外と出ていくばかりじゃなくて来ているねというところがあるんです。そうすると、子育て世代であり働く世代に、通勤に便利というPRを自治体がしているかどうか分からないですけども、都内に出るとか、働くため、地元には仕事はないけれども、仕事に通う上での便利となれば、ベッドタウンみたいな話になっちゃいますけれども、何か別の切り口の広報を、そういう世代に向けたんだしたら、それ向けというのはあると思うんです。

○加藤委員 私、今ちょうど息子が浪人生と中3で、受験してこの地域でびっくりしたのは、高校受験にこんなに金がかかると思わなかった。いや、びっくり。普通公立1校と滑り止め1校じゃないのといったら、4個も5個も受けて、何で高校受験にこんなにかかるんだよとびっくりしたんです。それはマイナスな点でもあるんですけども、選び放題だという点では利点ではないかと思うんです。ちょうど県境にあつて、茨城も選べる、埼玉も選べる、千葉県内も都内も選べる。今の人たちは子供の教育にもものすごい熱心だから、この辺から都心に通うハイレベルな人たちは、子供たちにもハイレベルな教育をきつと期待しているんじゃないですか。その時に選び放題というか、もうすごい。だから、お金かかってしょうがないですけども、でも、それはもしかしたら利点なんではないのと。

うちも、だから次男どうする、どこを受けると、茨城もいっぱいあるけれども、どうすると。余り受けないほうがうれしいけれどもとか言いながら、でも、何かそういう意味では子供にこういう教育が浸透しています。その辺はまた教育のほうでお金をかけなくちゃいけないんですけども、いろいろな学校、周辺の学校を選べるみたいな、職場に通うのもそうだけれども、学校に通うのに結構便利なのかなと。

○事務局B そうですね、確かに高校は今おっしゃったような近県にも行ける距離ではあるので、例えば千葉だと、皆さん受験日が同じなんで、だから、茨城を最初に受けて、東京を受けてということは多分可能なんです。

- 加藤委員 茨城受けて、千葉受けて、東京受けてみたいな、うちもだから4つ。
- 事務局B 親は金がかかりますけれどもね。
- 加藤委員 かかるんですけれども、いっぱい選べると。
- 事務局A それが当たり前だと思っていたけれども。
- 加藤委員 普通は日程が重なってそんなに受けられないんですよ。私、神奈川の横浜出身なんですけれども、自分の時代、ある程度重なっているんで、都内と県内と。
- 事務局B 県外が受けられるというメリットは非常にあるかもしれないですね。
- 加藤委員 外がいっぱいですね。埼玉も、うちも松戸なので、すぐ三郷もそこだし、つくばエクスプレスに乗れば向こうも行けるし、常磐線でも行けるし、この辺選び放題なのが、だから、結構牛久とかも行きます。駅伝とかで東洋大も、土浦も、ある意味いろいろな学校が選べる。
- 林委員長 高校だけじゃなくて中学も同じですよ。
- 加藤委員 そうですね、中学校私立に行くとか。
- 林委員長 私なんか田舎の出身だから、こんなに選べる地区があると思わなかったです。私群馬出身なんですけれども、高校というのは、公立か私立しかなくて、日程が2つしかないからどう頑張っても2つしか受けないみたい。
- 事務局B だから、群馬とは受験事情が全然違うんです。
- 林委員長 逆に選び過ぎて困るみたい、娘とかは、5校受けるんだとか。
- 加藤委員 こんなにいっぱい受けると、私も知りませんでした。
- 林委員長 うちなんかだと、お金がないから私立なんか受けるなど公立一本で。
- 加藤委員 前納金ないところにしてよという感じですよ。前納金10万円飛びましたからね。
- 林委員長 教育世代で、何か子育てという漠然としたのではなくて受験期を迎えるお父さんお母さんに。
- 加藤委員 定住してもらっていったら、その先の教育を絶対考えるじゃないですか。私、日経DUALというのを読んでいるんですけれども、共働きのサイトもお受験のことばかり、そうじゃない公立のいいところとか、もちろん両方載っているんですけれども、でも、教育にどれだけ関心が高いか、共働き世代がという感じなんで、家を買うのも共働き世帯でしょう。だから、そういうところをターゲットに提示してもらおう。
- 観光として呼ぶには近隣の人を呼ぶだけで、遠くから呼べるようなところではないし。
- 事務局B そうですね。

○林委員長 観光だけだと、コロナみたいなことがあると、人は来なくなっちゃいますからね。

○加藤委員 そうですよ。近くの人に来て楽しんでもらうという場所だと思うので、そんなに遠くからわざわざそこまで行くという感じではないので。

○事務局B 確かに今課題になっているのは、ちょうど小学校を機に転校する、移住するという方が非常に多くて、その先を見据えた教育、そこを考えて皆さんお家を選ぶんです。保育園の待機児童はもう大分広がって、その世代は増えてきているんですが、その次の段階の方たちをいかに呼び込むかというところが課題ではあるので、おっしゃったような教育とか、あと高校、そういうのを目指して皆さんがここら辺に住んでいただけるというのは、1つキーワードになるかなというのがありますね。

ちょうど高校生の医療費も今年から500円で受けられるようにという取組も始めましたので、もうちょっとターゲットを子供の小学校、中学校、高校、そこら辺を狙っていくというところはあると思いますね。

○林委員長 話をまとめていきますと、シティープロモーションのところですけども、意見については、今お話したとおりでよろしいかと思うんですけども、評価については、どうでしょうか。これも⑤にしていくというのはちょっとどうかというのもありつつ。

○加藤委員 難しいですね。全くなくはなかったでしょうけれども。

アビシルベは、でも観光っぽいですよ。ではないですか。

○事務局B 市の情報発信の場ですね。

○林委員長 ツイッターなんかでも頑張っているいろいろな情報が結構ここから来るんです。登録しておく。

我孫子の地元のアイドルのコンサートをやりましたとかというのから始まって、あと、こういうグッズが出ましたと、結構細かい情報を流している感じです。

水の館の話も載っていて、今日野菜の直売やりますみたいなのが来たりとか。

絞るとすれば、②か⑤かという感じかと思うんですけども。

○山下委員 一応達成しているという形にはなるのですか。

○林委員長 達成していますからね。

○山下委員 2は達成はしているんですけども、これはK P I 達成に向けた取組で、3はシティーセールスというのは、K P I の1、2、3にかかっているの、2でいいんですよ。

○林委員長 主には2ですか、情報発信ということですから。そうすると、確かに目標は達成はしています、ほかの2つと違っては。

○山下委員 まだまだ工夫の余地はあると思うけれども、効果は当然出ているので、私は効果があったでいいのかなと思います。

○林委員長 私も山下さんのご意見でいいかなという気がするんです。いろいろやり終わったりとか、切り口というのを変えていくことにして、これは②ということによろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○林委員長 いよいよ最後になりましたけれども、先ほどの話とつながるところはあるんですが、4番目、ページでいくと5ページになりますか、移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業ということで、起業の問題と女性支援フォーラムの実施ということで、これは直接どこのKPIということは、関連しているKPIは2なんでしょうけれども、少なくとも令和元年度のそれぞれの取組内容だと、KPIとの関連が見えないところがありますけれども、それぞれの事業の中で、起業の個別相談では起業していらっしゃる方が出ているというところがこちらには書かれております。

①のところ、相談者の中から3名起業とか、女性に特化したものとしては、参加者のうち1名が起業という形で、KPIとの関連という部分ではちょっと分かりにくいところではありますが、こういった一応成果が出ているというのがこちらの経過も整理の形になっています。

特に移住・定住につなげるための雇用、地元で仕事をつくって定住していってもらうという施策ということになるわけです。とりあえず、どうでしょうか、KPIとの直接的なつながりは見えにくいところであるんですけども、起業者の数字的なところというのは少ない、大きいというのはあるやもしれませんが、事業的にはある程度、成果は達成して見えるというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

大いに効果があったとまでは言えませんが、また効果が見えないというのも、起業者が出ていないわけではないので選びにくいとすれば、こちらについても②というあたりを選んでいければというふうに私は思うんですけども、どなたか、いや、そうではなくてという意見があれば、お聞かせ願いたいと思うんですけども、いかがですか。

○山下委員 しかし、事業費はこのわずかな値段で。

○林委員長 そうなんです。単位は千円じゃないですからね。

○山下委員 そうだとしたら、これで実際に地元で起業していただければ、ずっとそこに張り付くわけですからね。費用対効果からすれば大きかったと言えるんじゃないですかね。

○林委員長 ①、②と言っていいかどうか分からないですけども、①、②ということで、効果ありということではいいかと思います。

何かこちらの事業について、付すべきコメント等がありますか、特にないですか。引き続きこういった部分でも、地元で仕事をつくるという部分は、定住とか、移住につながる部分がありますので、頑張っていたきたいという気持ちであり、コメントというのは特にないですか。

分かりました。ありがとうございました。

結構いろいろあちらこちらに話が進みましたが、もしましたら、議題1については一応以上にさせていただきまして、続きまして、残りの時間で、資料2のところについて、いきたいと思います。

我がほうの班は、B班、どこの施策を担当しているかというところ、資料2の7ページのところに、基本目標3というのがあって、あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくりというのがまず一つ分担になっていて、もう一つが、ページでいきますと、16ページのあびこにずっと安心して住み続けられるまちづくりという基本目標4というところが分担になっていきます。3、4が主に意見交換をしていくというところになります。

また、冒頭お話ししておきますと、先ほど事務局のほうから、4回ほどの会議でというお話がありましたけれども、一応の目途といたしましては、今回と次回でなるべくこの評価を仕上げまして、3回目につきましては、今ちょっと提案なので皆さんのご意見もいただきたいところであるんですけども、特にこの中で、自分たちの担当している分野以外も含めてなんですけれども、所管課の方に来ていただいて、何か特定の事業についての意見交換をできれば今年はやっていききたいという考え方がございますので、自分たちの分担部分だけでなく、全体的に見渡していただいて、先ほどのシティープロモーションもそうかと思うんですけども、こういう項目がふさわしいんじゃないかという辺りも見ながら考えていただいて、できましたら2回目、次回あたりにこういった項目を担当課の方と意見交換をしたらどうかという辺りのご提案をいただければと思っております。

また、4回目につきましては、3回目が所管課との意見交換になりますが、4回目につきまして、例年どおりになんですけども、市長さんとまた意見交換をしていくということを予定されておりますので、特に今年はどういったテーマでやっていこうかという視点も入れながら、お話の評価のほうを見ていければというふうに思っています。

あともう一点、補足がありまして、今年、今回の事業で一応最終年度になりますので、今までですと、例えば7ページの表にありますとおり、有識者評価というのがA3の下の段の表の一番右側にありますけれども、順調、ほぼ順調、順調とはいえないという辺りを皆さんと意見交換して決めていき、それぞれの目標別に意見をつくるというのが主な作業だったんですけども、

ども、今年につきましては、一応最終年度ということになりますので、そういった各施策別、総合戦略の基本方向別に有識者評価を①、②、③つけるだけではなくて、これらをトータルで見ても、基本目標の下に数値目標というのがあるんですけども、こちらの辺りの現状というか、5年間の成果としてどうだったかも意見交換をしていく必要があるということになってございますので、部分と全体を見ながら、基本目標ごとに個別の施策とともに数値目標と全体目標の達成状況はどうか意見交換をさせていただければというふうに思います。

それで、お話を進める前に、もう一つの補足ですけれども、A4の厚い冊子が配られているかと思うんですけども、一番最初を見ると、右肩のところに①という形で番号がついていますが、実は施策別の番号がこちらに書かれていますので、めくっていただくと、例えば7ページでいくと、23婚活イベントというのがありますけれども、これも既に、23ページになりますけれども、関連の資料が出ている形になりまして、この番号を対照しながら、細かな内訳等はこちらで確認できます。全ての事業ということではなくて、恐らく毎年議論になるところを中心にピックアップしていただいていると思いますので、こちらも見ながらお話を進めさせていただければというふうに思います。

では、早速やっていきたいと思うんですけども、まず、総合戦略の基本方向ということで、7ページの大きい下の段の表ですけれども、基本方向（1）の結婚・妊娠・出産・子育てまでの継続的支援と、（1）単位で有識者の評価をつけていくということになります。

現状を確認していきますと、それぞれの（1）の中に、23から始まっているいろいろな事業がぶら下がっているんですけども、各事業別に達成状況というのが真ん中にあるのが分かりますでしょうか。達成状況がそれぞれ事務局さんのほうで評価していただいております。重要業績評価指標という表題の中の一番右側、表の中で真ん中なんですけれども、達成状況があって、遅延、達成等々が書かれていて、確認してみますと、婚活イベントのところ、遅延という形になっています。24の婚活事業についても遅延という評価結果になっています。

次のページにもこちらの施策に関係するところがあって、27は達成になっていますが、25、26については、達成状況だけ見ると遅延という形になってございます。見方も、去年見たきり、また、見ていないという人もいますし、私自身もそうだったので、現状を確認させていただきました。

それでは、一つ一つ見ていってからと思います。まず、23の婚活イベントの講座の開催回数ですけれども、達成状況からすると遅延という形になって、令和元年度実績値については3回という形になっていまして、前年が10回で、その前も10回、12回、若干開催回数が少ないとい

うのがぱっと見の印象でございますけれども、実際には3回で、遅延という形になっています。事業の評価、各所管課の方がどういうふうに考えているかというのが、真ん中になりまして、実績値に基づく事業評価欄というところがありますが、真ん中のところ、各事業課で見たところの評価、現状分析ということになります。ご覧になっていただきますと、どうでしょうか、遅延についての状況ですけれども、確認したい点等はありますか。

これを見ると、3回が少数で中止になって、実施できた3回という事業で、実績3回ということになっています。

ご覧になっていただいてお分かりになりましたとおり、イベントについては、それぞれ3回やっていたものが書かれておりますけれども、課題としましては、事業の今後についてというところになりますけれども、参加人数が少数で、実施に至らないイベントが残念ながら多いという状況が書かれています。また、限られた会員の中で、新たな参加者を募ることが難しいという状況の中で、現状なかなか事業展開が苦しそうな内訳がここに書かれておるわけです。

もし何かあれば、どうぞ。

○山下委員 婚活イベントですけれども、これは特にどういう人たちをターゲットにしているとか、そういうのはありますか。それとも、結婚適齢期というか、未婚の人たちなら誰でもと、そういう感じのイベントなんですか。

○事務局B イベントのほうは、ターゲットをその年々で決めていて、元気な人から障害のある方等々、イベント等もやっています。行政ならではのできないことをターゲットを絞ってやってはいるんですが、なかなか参加者が集まらない。あとは、新規の会員さんがどうしても増えていかないと、新しいイベントをやってもなかなか参加者は少ないということが現状としてあります。

○山下委員 要するに公的な目的があるということになりますね。

○事務局B あとは、利用者さんの希望を聞いて、例えば、前にやっていたのが、男性向けに、女性とうまくお話ができるよう講習会をやっていました。

○山下委員 結構、婚活事業というか、民間でもやっているじゃないですか、割と。そういう中で、行政的に税金を投入してやっていくというにはそれなりの公的な意味合い、色づけがないと難しいですよ、現実問題。

○事務局B そうですね。

○山下委員 総合計画の審議会での議論の時も、結婚はあえてしないというような考え方の人

もいる今日の社会において、そもそも市がそういうものをやるものなのかというふうな意見があったような気がするんです。例えば、農業の場合は後継者不足が結構あって、その原因としてなかなか結婚相手が見つからないとか、そういうのがある。それで、後継者不足を解消するために結婚を促進して、出会いの場をつくるというのであれば、何となく行政の目的があって、そこで子供が生まれれば、またそこで暮らしていくという話なんだと思うんだけど、この事業はどうかかなと、ちょっと思ったんです。

でも、なかなか出会いの場が見つかりにくいような人たちを具体的にターゲットと絞ってやっていたらっしゃると。

○事務局B 農業者向けのを以前やっていました。何件かは集まって成功していたんですが、最近はやはり参加者のほうが集まらなく、お相手の方が集まらないんです。農業をやっていたらっしゃる男性の方は集まるんですが、そのお見合いをする女性の方が集まらなくて、何度か中止になっていったところなんです。

○山下委員 逆に言うと、そういう人たちが集まらないからこそ、そこに本当は何か工夫してやらなきゃいけないということなんですよね。

○事務局B そうですね。そういう農業者であったり、さっき申し上げた身体障害者の方であったり、あとは、ちょっとご本人に課題がある方とか、そういう方をターゲットにしたイベントを当然実施をしていかななくてはいけないというのは、行政上あると思います。

○林委員長 婚活は、おっしゃられるとおりに現実的にこれをやるべきかという議論もありますけれども、やっているところは結構積極的に行政でも支援していますよね。

○事務局B そうですね。ただ、そうはいつでも、今お見合いをする場所も結構増えていますし、あとはネット上でやられるという方が非常に増えているので、我々のほうも時代の流れを見ながら、常に情報を得て、皆さんが今何を求めているのかというところをしっかりとつかんだ上で事業をやっていないと、ずっと同じことをやっていたんでは多分続いていけないので、それはまさに数字として出てしまっているのです。

今登録者の方が市内で登録すると、ああ、あいつ登録しているんだというのが分かっちゃうので、あえて違う市で登録するという方が多いという話も聞いていて、実際我孫子は我孫子の市民よりも柏とか、近隣の方が登録者に多いという事情があるので、だからこそ我孫子市に住まないで、多分皆さんほかの市でお住まいになるというところが出て、次の24番に出てきているんです。

○林委員長 この事業も今後ちょっと難しいですよ。今までみたいに結婚の機会を設けて、

どんどん民間の結婚紹介所並みにパイを広げていくという方向性で本当にいいのかというところはあります。

例えば、埼玉なんかでは、かなり積極的に民間の結婚紹介所並みにいっぱい事業をやっているんですけども、いろいろなアプリを使ったりとか、オンラインで、ズームで婚活みたいなことをやったりして、結婚したい人自体を受け入れるという方向性でやっていますけれども、それは民間に委託してやっている事業なんです。果たしてそういう方向性がいいのか、それとも我孫子市さんがやっていたように、結婚したいけれどもできにくいという難しい層に、難しい支援なんだけれども、希望をかなえてあげるといふ方向性に行くかという部分で、今曲がり角なのかなという感じで見ていたんです。

学生と婚活を調べたことがあって、埼玉県なんかだと、もう最新のAIでマッチングまでしちゃうんです。自分の100項目ぐらい答えると、君にはこういう人が合うみたいなのを紹介してくれてというので、それはそれですごいんですけども、でも、よく考えてみると、これは民間のよく電車の広告にあっているああいうところと違わないけれども、それは行政がやる婚活なのかなという議論をしたことがあるんです。

範囲を広げて便利ですと、女性もいっぱい登録して、男性もいっぱい登録して、公的機関だから安心です、さあ利用してくださいという婚活もあるでしょうし、先ほどおっしゃられたように、農業青年みたいな形で、結婚したいけれども、機会が本当になくとか、障害者の方で結婚したいけれども、困難なんだけれども、やはり結婚したい人に後押しするとかというふうな格好、結婚というものに対する公的機関がどう向き合うかという部分は結構難しいですよ。

特に、まち・ひと・しごとなどで、子供を産み育ててくれるというところに直結する政策ではあるかとは思いますが、民間でできることをどこまで公費を使って、いろいろな国の事業なんかでも活用すると、かなりのことができそうではあるんですけども、何かちょっと方向性は、我孫子独自の婚活支援というのもあっていいわけです。民間の集いみたいなのところととにかく人を寄せて、マッチングの件数が成り立つために、男女を呼ばばいいという政策でいいのかというところはあるんじゃないかなという気がしたんです。

○山下委員 民間の場合は、ニーズがあって、それに参加する人からお金をもらって、それでやっていますよね。

○林委員長 そうですね、数千円を取ってという感じですけども。

○山下委員 この事業、一応お金をもらっているんですか。

○事務局B 登録料がかかります。

○林委員長 参加費を取ったりとか、登録料も取ったりしているところの自治体もあるんです、数千円とかですけども。やはりいろいろな人がいますから、お金とか、あとちゃんとした人に来ていただくという部分は担保していかなくてはいけない部分があるようなので。

○林委員長 参加者を単に増やすというのであれば、募集するための広報みたいなものを打てばいいんでしょうけれども、打って支援することなのかという部分かは、議論が必要ですよね。民間でもできることですから。でも、公的支援でも公的機関でも結婚は希望をかなえたい人に対してはどしどしとしていかなければいけないところがあるし。

○山下委員 民間でできないというか、なかなか手の行き届かない部分をやるというのであればね。

○林委員長 本当にコミュニケーションが難しい人とか、体に障害があるとか、あと、職業上の理由でなかなか結婚できないというところで。

○山下委員 そういうふうな方向性であれば、いいと思います。人が集まったんだけど、うまくいかない、それは当たり前といえば当たり前で、もともとそういう厳しい状況にいる人たちが、結婚にもっていかうとするわけですから。

○事務局B この事業はもともと社会福祉協議会で実施していたんです。福祉の目的というところで。それが26年度の時の3回なんですけど、27年度から市のほうで補助金を出して、相談の機会やイベントの機会を増やしていきましょうという取組を進めてきて、月に1回イベントを目標に進めてきたんですが、この5年でその事業もなかなか立ち行かなくなっているという所管課の意見もありますので、ちょうど見直しの時期ではあるかと思います。

委員がおっしゃったように、ターゲットを本当にどこに絞ってやっていくのか、行政として今後続けていくのか、それとも民間のほうに一般の方は委ねていくのかというところは考えなくてはいけない時期にきているのかなというところはありますので、そういうところを所管のほうでも考えていかなきゃいけないところかなと思いますので。

○林委員長 ターゲットを絞ったり、あと最近ちらっと見かけるのは、そういう会費の安さじゃなくて、キャリア教育とか、キャリアデザインみたいなものを公的機関は教えるべきではないかという方向の施策なんかもちよっと見かけるんですよ。

機会を設けるとするのは民間でもできますけれども、人生設計をして、例えば加藤さんなんかのご専門になるかもしれないですけども、妊娠・出産とか、子育てということに対する知識をそもそも若者に教育機関で教育の機会がないから、公的とは、そういうところを支援すべきなんじゃないかというのもちよっとありそうなので、同じ婚活といっても、見合いとか、バ

スで連れていくとか、花火へ行ってどうぞという部分も必要ですけども、もうちょっと人生設計を学校教育と連携する中でしていくというのも多分あるんだと思うんです。

ここでの方向性は、支援事業の拡大、充実というふうになりますけれども、人生を考えて、結局人間も生物ですから、ある年齢がくると、当然子供が産めなくなるというのは若者は知らない、結婚しようと思ったけれども、今更もう結婚したけれども、子供はできない年齢だとか、働いただけでいいやと思っていたけれども、40近くなって子供をもとうと思ったなら求められないという部分は不幸な話なんで、それを教えていくというのも、ちょっと政策としてありそうな感じなんです。

だから、公的部分で還元をする部分と、民間に任せる部分という交通整理がほしいような気がして。

○事務局A 出生率を上げたいという意味だと、林先生おっしゃるとおり、早く結婚しないと、2人目はなかなか産みにくくなってくるし、行政としてはそれを推進というのはできないと思うんですけども、教育といったことは必要なのかもしれないですね。

○林委員長 考えるきっかけをあげて、結婚しようというんじゃないですけども、しようと思ったのに、もとうと思ったのにもてなかった、知らなかったというのをなくすというところなのかもしれないです。

○事務局B 実際、子供が生まれないと分からないので、大変さがね。

○加藤委員 そうですね。住む場所を選ぶ時も、訪問して思うんですが、子供をもつ時にどういう視点で住む場所を選ぶかとか、そういうことが産む前に分かっていない。だから、結構それで産後うつになったりとか、産む前、子供がちっちゃい頃を選びたい場所と、ある程度大きくなって教育とか、遊ぶ環境とか考えて選びたい場所と、家を建てちゃって、はい、おしまいと。ああ、失敗したというのものもあるし、そういうことをもうちょっと教育できないのかなとは思います。

○事務局B そういうことを教えてもらう場がないですよ。

○加藤委員 そうですね。

母親学級ももう一人産めなさそうな人ばかりすごく多くて、親の平均年齢30代後半くらいですかというんです。年上の人たちのほうが真面目だからというのもあるんでしょう。このクラスの中でも年齢に差があって、親子みたいな感じがあります。一人でお困りだろうなという人が多いです。

○林委員長 婚活支援事業については、今お話したとおりですけども、もう少し先に進みま

すと、婚活の次にやってくるのが今度は妊娠・出産・子育ての環境づくりというところもありまして、こちらについては、3本の25から27までの事業というところが挙げられてございます。

これも先ほどのものと併せて状況を確認しつつ、評価を加えていくということになるわけですが、ここでは、特定不妊治療の助成件数と、産後ケアの事業の利用者数、全戸訪問の訪問率というのが指標になってございまして、27が達成ですけれども、25、26については遅延という形になってございます。

婚活支援は先ほどのとおりですけれども、何かまず質問とか、確認とかはございますか。

事業によってそれぞれ事情が違うようではありますが、25については、県の上乗せ事業制度として始まっているところがあったり、いろいろ制度的な観念もございます。

○加藤委員 すみません、聞いていいですか。26番の産後ケア事業利用者数というのは、ショートステイも、デイケアも、ママヘルプサービスも、みんな込みですか。

○事務局B そうですね。

○加藤委員 全部ごっちゃ。

○事務局B 全部込みの人数です。今ちょうど25ページの表を見ていただいていると思うんですが、母数のお母さんが減っている場合には、利用者はそれほど激減はしていないかなというところだと思います。

○加藤委員 指標がいいのかどうか、母数が分かんない。

○事務局B その方のご事情等で利用する、しないというのがあるので、なかなかこちらから、勧めるというか、もっともっと使ってくださいよというものだけでもないので。

○加藤委員 何の利用が多いんですか、この3つの中で。

○事務局B ママヘルプです。

○加藤委員 こっちの端は年度でしたか。

○事務局A そうです、年度でそれぞれの利用人数とあとは日数ですけれども、延べ日数。

○事務局B 出生数でいくと、こここのところ800人を切っている状況が続いているので、母数が減っている割合からすると、このサービスは利用されている方が多いかなというのはあります。

○加藤委員 これを利用するのに、お宅の地域はちょっと利用したいけれども、やってくれる人がいませんよというケースはあるんですか。

○事務局B いや、そういうことはないと思います。結構広く使えると思うので、ただ、産後ケアのほうは病院さんが余りこころ辺はないので、それほど大きくは伸びていかないんですが。

○加藤委員 そうですね。それは遠いですかね。

○加藤委員 でも、出生から考えればいいから、ただ、ちょっと気になったのは、松戸とかは、場所によってはケアを提供する会員がいないから使えませんとか、あと、私が聞いているんでは、いろいろ利用で頼むことに制限があって、使い勝手がよくないから、頼んでも面倒くさいし無駄だからやらないという人がいたので、そういうことがなければ。

いろいろ制限があって、一般の方が提供会員になって、私その講師をやっていたりするんですけども、お掃除もしてくれるけれども、赤ちゃんのいる部屋しかしてくれないとか、何かいろいろなものがございまして、使い勝手が悪いから使わないみたいな話なので、そういうことがなくて、皆さん便利に使っていて満足しているんだったら、別に、出生数が減っていることを考えればいいんじゃないのかなとは思いますが。

○事務局B そういうところは聞いたことがないので、実情は聞いてはみたいと思います。

○加藤委員 本当はもっと使いたい人もいるんだけど、使い勝手が悪いから使っていないとかいう人がいないのかなということだけちょっと、それぐらいかなと。

○事務局B 所管課では聞いたことがないので、でも、いま一度確認します。

○事務局A 目標値をしっかりと掲げている以上は、そこを目標にしていかないといけないのかなと。あとは利用促進するというか、利用しやすい状況をつくっていく必要があると。

○加藤委員 私、産後ケア、松戸で訪問型のほうに携わっていて、2人目のお子さんのところに行くと、勧められたから利用してみるんだけど、何をしてくれるんですか、一体私たちと言われて、でも、2人目とかの人は、私たちのアドバイスではなくて実際の手がほしいんです。だから、こっちのママヘルプみたいな社協のほうを使ったほうが私もいいと思うんだけど、松戸市のはそういう制限があり過ぎて使いにくいと前にも利用者に文句を言われたことがあって、こんなだったら来てもらわなくていいみたいな、あれやってほしい、これやってほしい、それは範疇ではありません、これはできませんと言われて、そんなの来なくていいみたいに怒られたことがあったので、そういうふうに言われていますよと、松戸市の会議でも文句を言ったんですけども。

○事務局B 松戸のは、社会福祉協議会のものが、制限が厳しいのですかね。

○加藤委員 そうですね、これ以上はやらない、ここはやらない、これはするとか、しないとかの制限が厳しくて、使い勝手が悪いと言われました。

○事務局B そうすると、うちもちょっと心配ですね。

○加藤委員 本当はそういう人がほしいんだけど、そういう面倒くさいことであれば、そ

れはしてくれないというんだったら、面倒くさいからいいわと。そういうヘルプも本当はほしいんだけど、ちょっと使い勝手がよくないというのはありました。

○事務局B 我孫子もママヘルプは社会福祉協議会で実施しているんですが、利用者はゼロなんです。なので、もしかしたら、ちょっとそういうのはあるのかもしれないので、いま一度内容のほうは確認をします。

○加藤委員 欲しい人とのニーズがあっているかどうかということですね。

助産師さんが来て話を聞いてくれるだけなら要らないと、2人目とか、3人目の人には言われました。独り暮らしなんですけれども、私が何が要りますと言ったら、何してくれるんですかと言われると、皆さんのお悩みを聞いていろいろアドバイスするだけです、実際には動きませんといったら、要りませんと言われることが。

○事務局B 2人目の時は特に手が欲しいですね。

○加藤委員 実際に手が欲しいので。サービス内容が分かっていないから。

それで、あとは医療機関にやっと松戸も落とし穴がなくなったんですけれども、最初始まった時は産後1か月だけで、それが4か月に延びて、預かりのほうは6か月からで、では5、6か月のこの2か月の穴はどうするよというのが最近になってやっと埋まったんですけれども、預かりのほう4か月以降やってくれるようになって、切れ目ない支援、切れ目だらけで穴ぼこだらけだったという話で、そんなことがありました。

○事務局B いま一度確認をします。

○林委員長 27は達成ですね。希望家庭には全部行けたということでもあります。そうすると、まずは(1)について見たところではあるんですけれども、質問についてはまた次回ということにしたいと思うんです。ここは3区分になっています。順調、ほぼ順調、順調とはいえないというところになるんですけれども、今日今まで意見交換をさせていただいた中を見ると、順調というのもちょうと微妙だなという感じがしますよね。どうもいろいろお話を聞いてみると、前のページ、後ろのページ、7ページ、8ページも実は光を当て直してみると、更なる課題がありそうだなというところがあると思うんです。そうすると、追加の説明というのを次回頂くとしても、今日のところとしては、3かなという気がしたんですけれども、いかがでしょうか。

○山下委員 達成状況は遅延ですから、これで順調というのはなかなか難しいと思いますよね。

○林委員長 今事務局さんもおっしゃられていましたけれども、いろいろな見直しの時期にきているということなんで、これは3ということで順調とはいえないという形で整理をさせていただいておきます。

とは言いながらも、9ページを飛ばしてしまいましたけれども、9ページも今のところと含めるものだったので。すみません。

ここでは、母子保健と予防接種の充実というもう一つぶら下がっている施策になっておりまして、28が達成になり、29も達成、30については遅延という形になっていまして。

○事務局B 支援をしているところ等、説明だけさせていただいていいですか。

○林委員長 お願いします。

○事務局B まず、9ページの30番、フッ素洗口は、この分科会のほうでも何度か意見が出て、もっと広げていくべき事業だよねということでご指摘を頂いていたんですが、実施園のほうで30と31は変わらず17園で、主に年長さんクラスを実施しているんですが、中には年中さんクラスも実施をしていることは聞いていますが、園児の数としては増えてはいない。多分幼稚園さんのほうでの実施がなかなか難しいかなというところが増えない理由ということになっているかと思います。

すみません、次は項目が変わるので、次回また改めて説明します。

ここまでの支援はここですね。

○加藤委員 9ページまでですか。

○林委員長 そうですね、9までが1個のかたまりというか、カテゴリーになっていまして、10からまた別の子育て世代の支援という形ですので。

結婚して、子供が生まれたところまでがこちらに。子育てするのは次回事項という感じだよね。

28から30まで何かございますか。今まで十分議論してきている範囲のことではあるわけですが、1つ課題とすれば、実施園自体の増加がなかなか難しいというところがありますので、これまた最終的には有識者の意見というところを、15ページのところでまとめていく必要がありますので、ちょっとその一つの候補という形で考えさせていただきまして、いずれにしましても、ここまでの評価については、今のページについては、母子健康手帳とか、予防の部分というのは十分ケアしていただいている部分ですけれども、そのほかのところは遅延というところが多々ございますので、基本的に評価については順調とはいえないという形で整理させていただければと思います。

一応11時半くらいというお約束だったんですけれども、37分になってしまいました。

この後どういたしましょうか。

○事務局B 交付金の一番最初の項目の総評が後になっていたの、そこだけ決めていただけ

ると。一番最初にやったスポーツボランティアの育成のところの評価。

○林委員長 2ページのところになるうかと思えますけれども、先ほどちょっと出かかった意見としては、⑤ではないかという意見がございましたけれども、そのほか、今後に期待というふうにするか、費用からすれば、ある程度結構な数をカバーしているというふうにも見えますけれども、どのあたりの評価が皆さんよろしいですか。

○山下委員 ⑤でいいんじゃないかなと思います。

○林委員長 特にご意見なければ、そうしましたら、⑤ということをお願いできればと思います。

次のページ、3は評価しましたし、5も大丈夫ですね。

○事務局B 最初に林先生のほうからお話があったように、2回目で今見ていただいている評価のほうを終了させたいなというふうに思っているんです。今日前半戦の1ページから6ページまでは、隣のグループのほうで議論をしているので、こちらで細かくいうことはないのですが、もし皆さんのほうでお気づきの点とか、聞いてみたいことがあれば、次回そこについては私たちのほうで説明をさせていただいて、それから、次3回目、所管課を呼ぶ、市長との懇談会等につなげていきたいと思っておりますので、最初の部分もお目通しいただくとありがたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○林委員長 この後、どういたしましょう、ちょっと分量的に多いですね。10、11、12が一つのカテゴリーにはなるわけですが。

○事務局B 次、最初からそれでも取りかかれますので、次回ピッチを上げていただければ、何とかいけるかなというところではあるんですが、どうでしょう。

○林委員長 皆さん、次回10ページから今度評価していきますけれども、今回、資料初見ということもありまして、なかなか意見、難しいし、出にくいというものもあったかと思えますけれども、皆さん見ていただいて、軽くこの辺りという形で評価についてもご意見をまとめておいていただいて、なるべく次回で全部上げられるという形で進めさせていただければというふうに思います。

あと、先ほどお話もありましたけれども、担当しない部分についても、意見交換の項目拾いということで、資料のほうを見ていただければというふうに思っています。

まとめりませんけれども、以上で全体を通して何か確認したい点や、次回以降についての質問等がございましたらご発言いただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

では、すみません、ちょっと中途半端になりましたけれども、次回また、もう少しピッチを

上げて進めていきたいと思いますので、意見のほうを検討をしておいていただければというふうに思います。

一応、これでB分科会のほうは終了させていただきますので、ありがとうございました。